



## B. 各支部から

# 山口県小児保健研究会の活動状況

山口県小児保健研究会支部長  
山口大学大学院医学系研究科小児科学分野  
市山高志

古川 漸小児科前教授に引続き、平成21年より市山高志教授が山口県小児保健研究会の会長となりました。本研究会は、小児保健全般に関する研究・知識の普及ならびにその事業の発展を図り、もって小児福祉を増進することを目的につくられ、会報は今年で第43号になります。運営は事務局を山口大学医学部小児科内に置き、役員は医師会・産婦人科医会・看護協会・薬剤師会・保育協会・栄養士会・公衆衛生協会など21名からなり、会費は個人1,000円・団体10,000円で運営しています。平成22年度の会員は、272名ですが小児科医が190名を占めており、その他の会員も小児科に関係する医療関係者が多くを占めており、研究会の一般演題も〈感染・アレルギー〉、〈障害児支援〉など医療に関するものが多い傾向があります。しかし、増加の一途をたどり大きな社会問題にもなっている虐待をはじめ、不登校・いじめなど小児をとりまく複雑な環境に対応するために、医療だけでなく行政・教育機関・保健所（保健センター）・児童相談所など多くの分野の協力が不可欠であり、多くの分野の会員の獲得と参加を目標にしています。

主な活動は年に一度、障害児・療育・育児支援・母子保健・医療・心理などについて15題前後の一般演題発表と教育講演を行い、小児保健に関係する幅広い分野の情報交換を目的とした研究会を参加無料で山口県小児科医会や県行政と協力して開催しています。研究会は財政的なこともあり山口大学小児科が運営する手作りの研究会です。山口県は人口140万強の県で、20から30万人前後の市が点在している

山口県小児保健研究会  
〒755-8505 山口県宇部市南小串1-1-1  
山口大学医学部小児科内

特徴的な人口分布であり、2010年度は9月12日に山口県のほぼ中心にある山口県総合保健会館内山口県健康づくりセンターで13題の一般演題と教育講演を10:00から14:05の日程で行いました。より参加者を増やす試みとして山口県小児科医会の企画する市民公開講座を本研究会終了後に行っていることもあり、本研究会参加者は100名前後と盛況でした。

また山口大学医学部の学生は3年生の約半年間、各学生が興味のある科のカリキュラムに参加するに「自己開発」という授業があります。小児科では4名の学生を毎年受け入れていますが、内2名の学生には学外実習として保育園、障害児通園施設や総合支援学校などで数か月ボランティア活動や障害児支援に関するアンケート調査と通じて小児保健に接してもらうカリキュラムを提案しています。このカリキュラムに参加した学生には学内発表だけでなくこの山口県小児保健研究会でも発表してもらい教育の場として小児保健に関心を持ってもらえるようにしています。さらにこの学生たちの多くは将来小児科希望であり、小児科医になった時にも役に立つと考えています。

子どもは人類の貴重な財産であり将来を担う無限の可能性を有し、その背後の家族や地域を含めた大きなネットワークとして小児保健の役割は非常に重要です。今後も山口県小児保健研究会がより発展し山口県内の小児保健向上のきっかけになるよう運営のお手伝いをさせていただき所存です。

(文責 山口大学大学院医学系研究科小児科学分野

講師 前場進治)